

保育所等の園外保育における安全確保を求める緊急申し入れ

日本共産党愛知県委員会

委員長 岩中正巳

5月8日に大津市で、散歩（園外保育）中の保育園児らの列に軽自動車が入り込み、園児2名がなくなる事故が発生しました。亡くなられた園児に心から哀悼の意を表明するとともに被害を受けた方々の一日も早い回復をお祈りするものです。

厚生労働省は、この事故を受け園児の散歩に関する安全管理の徹底を求める通知を都道府県に出しました。その中で「保育園側の対応に問題が確認されていない」と指摘しているように、今回の事故は、どれだけ保育士が注意を払っても防ぐことができない事故であり、行政の責任で自動車等から園児を守るための安全対策が必要です。

子どもの発達にとって園外保育は重要であり今後も積極的に行っていくべきものです。また待機児童対策のなかで園庭のない保育園も増えています。

日本共産党名古屋市議団が緊急に行った保育所へ聞き取り調査では、園外保育の際「交通量の多い交差点を通る必要があるが、安全柵がなくて危険」「狭い道路には通学路のように路肩のカラー舗装をしてほしい」など、移動経路や利用する公園等での危険個所がいくつも指摘されました。いくつかの保育所は独自に土木事務所等に安全対策を求めています。危険個所が放置されている例もありました。

名古屋市は市内幹線道路の交差点を緊急点検し、35カ所に安全防護柵の設置を行うことになりましたが、自動車産業が盛んな愛知県は交通死亡事故ワースト1が続いています。車優先社会からの転換は県民の安全を守る上でも急務です。

今夏の事故を受け、改めて、子どもの命を守るよう全県的に安全対策を講じることが緊急に求められています。よって以下の点を緊急に申し入れます。

記

- 1、園外保育における危険個所を全県的に把握し、関係機関とも必要な協議もを行い、早急に対策を講じること。そのため、直ちに市町村を通じて各保育施設からの聞き取りを行い、園の取り組みと危険個所等の実態を集約すること。
- 2、市町村が必要とする交通安全設備の設置に対する財政的措置を設けること。
- 3、必要な交通安全設備の設置に対する財政的な支援を国に求めること。 以上